

第 2 回 た か ち ほ + 未 来 共 創 会 議

－ 目 次 －

1. 基本構想の策定内容について(15分)
..... 2~3
2. 前回の振り返り(15分)
..... 4~6
3. 先進地視察研修の報告(15分)
..... 7
4. 基本構想に係るの意見共有(60分)
 - 町の将来像についての意見交換
 - 拠点施設と周辺施設の機能についての意見交換... 8~12

① 基本構想の策定内容について

基本構想で明確に示すこと（決める）

- ・ まちの課題認識
- ・ 政策的位置付け
- ・ まちの将来像（ビジョン）
- ・ プロジェクトの目的
- ・ コンセプト



基本構想で整理すること（選択肢）

- ・ 施設のあり方 ・ 機能構成
- ・ 規模、面積 ・ 段階的整備の考え方
- ・ 連携 ・ 活性化の方向性

複数案の整理により幅を持たせる



次段階で具体化

これからの基本計画・概略等で決めること

- ・ 具体的な面積と配置
- ・ 駐車台数
- ・ 事業スキームの決定
- ・ 民間活力や官民連携可能性
- ・ 運営収支モデル

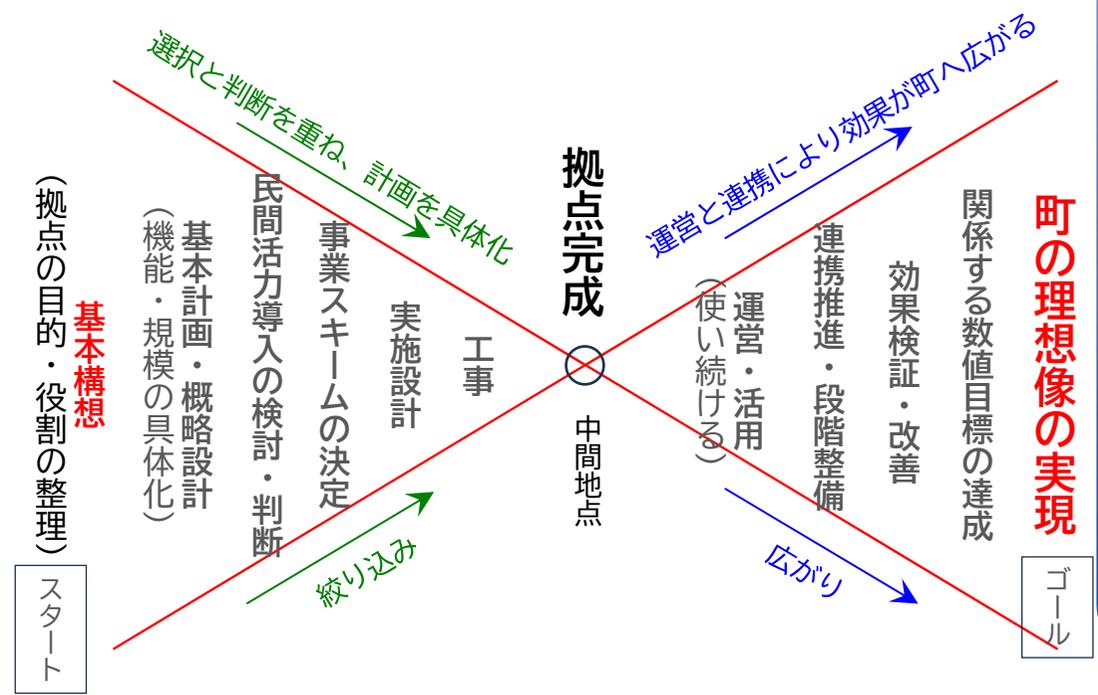
基本構想は、町が目指す将来像やプロジェクトの目的といった全体計画の大元となる部分を明確に示す段階です。一方で、その実現手法や具体的な形については、複数の選択肢を整理した上で、次の基本計画段階で具体化していくものと考えています。

今回の基本構想は、

「**決まっていない=検討不足**」ではなく、「**次の段階でより良い選択ができるよう、今は決め過ぎない整理**」をしています。

事業の進め方イメージ

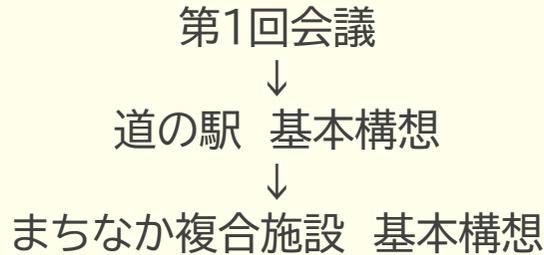
— 拠点完成までは「**絞り込み**」、完成後は「**広がり**」 —



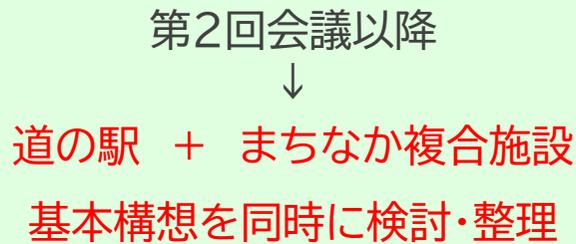
① 基本構想の策定内容について

基本構想の策定手順の見直しについて

【 当初の考え方 】



【 これからの進め方 】



変更理由

当初は、施設の役割や位置づけに関する誤解を避けるため、道の駅とまちなか複合拠点施設を段階的に検討する想定としていました。一方で、議会等からのご意見を踏まえ、両施設を同時に整理・検討した方が、町全体としての役割分担や関係性をより明確にできると判断し、策定の進め方を見直しました。

2つの施設の共通点と違いについて

共通するところ

基本的な考え方

- ・町の将来像の実現に資する拠点
- ・交流人口の創出と地域経済の循環
- ・官民連携も視野に入れた持続可能な運営

違うところ(例)

道の駅

- 主な対象
 - ・観光客
 - ・町外居住者
 - ・日常利用者
- 立地
 - ・IC出入口付近
- 主な役割
 - ・物販
 - ・観光
 - ・情報発信

まちなか複合施設

- 主な対象
 - ・町民
 - ・子育て世代・高齢者
 - ・日常利用者
- 立地
 - ・町の中心部
- 主な役割
 - ・日常の拠点
 - ・交流
 - ・町民活動

同時検討における考え方

現在の基本構想の段階では、道の駅とまちなか複合施設を同一敷地内に設けることや、道の駅の中にまちなか複合施設を組み込むことは想定していませんが、今後の議論や検討の中で、その可能性についても柔軟に検討を進めていきます。それぞれが異なる役割を持つ施設として整理しつつも、将来的な連携の可能性についても視野に入れ、適切な対応策を模索していきます。

② 前回の振り返り

各委員からの主なご意見

- ①高千穂町の総合長期計画との整合性を最初に示すべき(緒嶋委員)
- ①教育との連動、人づくりの視点を組み込むべき(竹尾委員)
- ②財政面への懸念、施設が町の負担とならないか(喜田委員)
- ②総事業費がいくらかかるのか、財源をどうするのか、地域や町民の利益をどの様に考えるのか、丁寧に検討して欲しい(馬原委員)
- ③「絵に描いた餅」にならないための着実な実施体制への不安(藤本委員)
- ③民間との連携(公民連携)による運営体制を明示してほしい(新納委員)
- ③事務局体制の強化と専任スタッフの配置の必要性(緒嶋委員)
- ③指定管理者などの運営主体に関する明確化(新納委員)
- ④防災拠点としての規模・配置などの空間計画を具体的に提示してほしい(工藤(勝)委員)
- ④地元農産物の販売と加工体験機能の導入による農業振興への期待(佐藤(友)委員)
- ④インバウンド対応を含む多言語サービス・案内体制の整備が必要(工藤(勝)委員)
- ④用地面積と駐車場容量など、機能規模に見合った計画が必要(竹尾委員)
- ⑤インターチェンジ付近の交通渋滞問題への対処(工藤委員)
- ⑥「神話」の視点を中心に据えたまちづくりが不可欠(竹尾委員)
- ⑥商店街や地場産業の活性化と道の駅の連携が必要(藤本委員)
- ⑥運動公園との連携や周辺整備の重要性(新納委員)
- ⑥ ⑧ 他市町村の視察実施を希望。総合公園の施設(機能)廃止はしないで欲しい(磯貝委員)
- ⑦スピード感を持った決定と着工が求められる(藤本委員)
- ⑦複数候補地(特に案②+③)を融合した柔軟な検討の可能性(工藤委員)
- ⑧高齢者や一人暮らし世帯に対応できる防災・福祉機能を(佐藤則義代理)

意見の整理

	意見の分類	該当意見(敬称略)
①	計画との整合・政策方向	・総合長期計画との整合性(緒嶋) ・教育との連動(竹尾)
②	財政・事業採算性	・財政懸念(喜田) ・総事業費・財源(馬原)
③	手法・体制・事業スキーム	・公民連携/指定管理者(新納) ・事務局体制強化(緒嶋) ・着実な実施体制(藤本)
④	面積・駐車計画・機能	・用地面積・駐車場容量(竹尾) ・防災機能規模と配置(工藤勝) ・直売所、加工体験(佐藤友) ・多言語サービス・案内体制(工藤勝)
⑤	交通・渋滞対策	・IC周辺交通(工藤勝)
⑥	周辺施設との連携(ハード)	・周辺の施設整備の重要性(新納) ・神話視点の軸決め(竹尾) ・既存施設との機能共存(磯貝)
	周辺施設との連携(ソフト)	・商店街、地場産業との連携(藤本)
⑦	維持管理費と運営採算モデル	・負担にならない仕組み(喜田/馬原)
⑧	その他	・ひとり高齢者対応の防災福祉機能(興梠(代理)) ・候補地融合検討(工藤勝) ・スピード感ある決定(藤本)

今回は、①②については整理しましたので第2回(今回)で方針を説明します。

一方で、他の項目などについては、方向性や前提条件が整理された後に検討すべき事項であると考えていますので、第3回の会議あるいは基本計画の策定過程において、複数の選択肢を示しながら、委員の皆様のご意見を踏まえて検討を深めていく考えです。

② 前回の振り返り

「計画との整合性・施策の方向性」

課題

人口減少・担い手不足・地域経済の停滞・拠点機能の分散

行政計画

本町では、まず上記の課題を整理した上で、その課題にどう対応していくかを町として将来像や施策の方向性を整理した、第6次総合長期計画および第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しています。

その計画に基づく ↓ 具体的な事業として

「たかちほの杜（もり）プロジェクト」
～ まちを育み、人をつなぎ、未来を守る共創拠点 ～

事業化

「拠点づくり」という具体的手法で応える実装プロジェクトであり、道の駅とまちなか複合施設を通じて、しごと・ひと・まちの循環を生み出すことを目的としています。

拠点づくり

道の駅

まちなか複合施設

教育との連動については、新たな教育施策を位置付けるものではなく、例えば、たかちほの杜プロジェクトが教育分野とも連動し得る場として考えます。

「たかちほの杜（もり）プロジェクト」

道の駅

まちなか複合施設

※教育を実施する施設ではなく、教育活動が展開できる「場・フィールド」

例えば、

学習の場

- ・探求学習（地域課題・文化）
- ・校外学習（体験）

地域との関係づくり

- ・大人が伝えて子供が町を知る
- ・若者が町に関わる

人材育成

- ・キャリア教育（仕事、産業理解）
- ・起業の現場を知る機会

上記のようなプログラム等を考えて、学びを通じて町への理解と愛着を育てながら、次世代が将来の「担い手・関係人口」として町と関わり続ける循環を考えています。具体策は今後の検討事項とし、方向性のみを共有します。

② 前回の振り返り

「財政・事業採算性」

財政面や事業としての持続性の懸念について

町としても、本プロジェクト検討していく上で重要な視点の1つであると認識しています。

① 初期投資(整備費)に対する考え方

- 国・県補助制度の最大限の活用

町の一般財源の持ち出しを可能な限り抑えながら整備することを基本とし、**単独事業として整備するのではなく、制度を前提とした事業構成を検討します。**

例えば、第2世代交付金(国1/2補助)や都市再生整備計画関連事業(国1/2補助)等の施設ごとに適用できる補助制度を検討します。1/2を超える補助制度は有りませんが、町の持ち出し部分について、国の認める公的な借り入れ制度を使ってまかいます。

- 既存施設や立地条件の活用

既存の敷地条件や周辺環境、既存施設との関係性を活かすことで、整備費の抑制と合理的な配置を図る考え方です。

例えば、町所有の土地や建物、高速道路建設で発生した残土処分地等の活用を考えた整備計画の検討や、既に駐車場等で平地になっている場所の検討し、無断整備を避ける考え方です。

- 機能の整理・段階整備

将来のシミュレーションと必要性や優先度を整理した上で、**基本的な機能の整理、段階的な整備**も視野に入れて検討します。

② 運営に対する考え方

- 町単独による運営を前提としない検討

町がすべてを直営で運営することを前提とせず、機能に応じた運営のあり方を検討します。

- 民間活力や官民連携手法の可能性検討

民間事業者のノウハウや経営感覚を活かす視点を持ち、官民連携の可能性を検討します。

例えば、第3セクターのような行政が経営・運営に携わるようなやり方ではなく、道の駅うきはのように、行政は施設管理のみ、経営・運営は民間事業者が担うやり方をイメージしています。

- 複数機能による相互補完を意識した施設構成

単一目的の施設ではなく、複数機能を組み合わせることで、利用の平準化や相互送客を図ります。

③ 財政負担に対する考え方

- 既存施設の集約効果への配慮

新たな施設整備によって管理コストが単純に増えることのないよう、既存施設との機能整理を行い、町全体としての公共施設維持費の抑制につながるかどうか判断材料とします。

- 財政負担が生じない運営の検討

恒常的に過度な財政負担が生じる運営は想定していません。

- 新たな財源の検討

宿泊税などの町独自の財源確保策を検討します。

※国、県補助制度等については、具体的な機能や面積、概算工事費の整理をするときに詳しく説明します。

③ 先進地視察の報告(資料1、資料2参照)

※視察とアンケートを通して見えてきたのは、「良い事例をそのまま真似ること」だけではなく、「高千穂の条件に合った考え方をどう整理するか」と考えています。

○視察の目的

道の駅整備および、まちなか複合施設の基本構想を検討するにあたり、先進地の事例から「考え方」や「判断の視点」を学ぶことを目的として実施。具体的な施設規模や機能を決めるための視察ではありません。

○視察先

・道の駅通潤橋・道の駅うきは

○実施日・参加委員数

・令和7年11月6日(木) 参加委員12名

○施設概要

「道の駅通潤橋」

- ・敷地面積は約1万平米の面積があり、建物は958.31㎡ある
- ・駐車台数は、普通車50台うち2台がEV車、大型車7台
- ・施設は、直売所、レストラン、キッズスペース、イベントスペース
- ・年間売上2億4千万円、うち物販の売りが2億円

「道の駅うきは」防災道の駅

- ・敷地は約9600m²(うち国道交通省直轄2400m²)あり、建物は855.75m²ある。物産館と食彩館(レストラン、研修室、加工品直売所)
- ・駐車台数は、大型車9台、普通車308台、身障者用3台
- ・道の駅は市の管理地域に位置し、防災エリアのトイレや駐車場が国の管理下にある
- ・売上高は13億5千万円に達しており、年間のレジ通過者数は約60万人で、日中休憩の来場者数は約120万人が利用
- ・九州じゃらん道の駅ランキングで9年連続1位を獲得している
- ・民間のホテルが道の駅の隣に設置されている

※アンケートの実施

○趣旨

視察を通じて、各委員が何を学び、どの点を重要と感じたのかを把握するために実施。また、共通認識や論点を整理するための材料とするためです。

・回答数 10件

※アンケートの結果

○視察内容の評価

「非常に参考になった/参考になった」が大半を占めていました。

- ・特に道の駅うきはの運営、施設構成地域連携、賑わいづくりが高評価。通潤橋についても「一体的構想・シミュレーション」が一定評価。

○共通の学び

(1)規模・運営

規模は「将来視点」で考える。シミュレーションの重要性。

- ・来訪者数や交通量のピークに合わせて拡大するのではなく、将来の人口動態や維持管理を見据えた規模設定が行われている。
- ・「大きければ良いわけではない」という考え方が共通して確認された。赤字運営の原因になりかねない。

運営主体の重要性

- ・施設の成否はハードよりも運営主体の企画力・調整力
- ・継続性に左右される。行政単独ではなく、民間の関与を前提とした運営体制が現実的であるという認識。

(2)役割分担・連携

道の駅の役割と得意分野

- ・道の駅は、広域から人を呼び込む力や情報発信力を持つ重要な拠点である。一方で、来訪のきっかけづくりには強いが、地域の日常的な活動や暮らしそのものを継続的に支える機能は、単独では担いきれないという認識。

まちなか・周辺施設との関係(役割を活かし合う視点)

- ・まちなかや周辺施設は、町民の日常的な利用や継続的な活動が生まれる場として重要な役割を担う。
- ・道の駅が生み出す来訪のきっかけを、滞在・交流・活動へとつなげていく受け皿として機能することが期待される。

まとめ 「高千穂で検討すべき視点(整理)」

- 規模の考え方 → 将来負担を見据えた、身の丈に合った規模とは何か。
- 運営の考え方 → 行政・民間・地域がどのように関与することが持続的か。
- 連携の考え方 → 道の駅とまちなか複合拠点施設、既存施設がそれぞれの役割を果たしながら連携する仕組みとは何か。



④ 基本構想に係る意見共有

趣旨説明

本日の「たかちほ+未来共創会議」では、基本構想をまとめていくにあたり、**行政側の考えを示すだけでなく、委員の皆さま1人ひとりの視点や想いを伺いながら整理していきたい**と考えています。前回の会議では、情報共有や意見交換を中心に進めましたが、今回は一歩進めて、町の将来像や拠点の役割について、皆さまの考えを直接言葉にさせていただく時間を設けます。

そのため、本日は前回までとは少し形式を変え、少人数で意見を出し合うワーク形式を取り入れています。**「正解を出す」ことが目的ではなく、高千穂の未来を考えるための材料を集め、方向性を共有することを大切にしたい**と考えています。

本日は、特に次の点について皆さまのご意見を伺います。

- ① 将来、どのような高千穂町でありたいか
- ② その将来像を実現するために、道の駅やまちなか複合施設にどのような役割・機能が必要か
- ③ それを支える周辺の施設や仕組みには、どのようなものが考えられるか

限られた時間ではありますが、ぜひ率直なご意見や気づきをお聞かせください。本日の議論は、今後の基本構想をまとめていくうえでの重要な土台となります。

① なぜ「町の将来像」を最初に決める必要があるのか

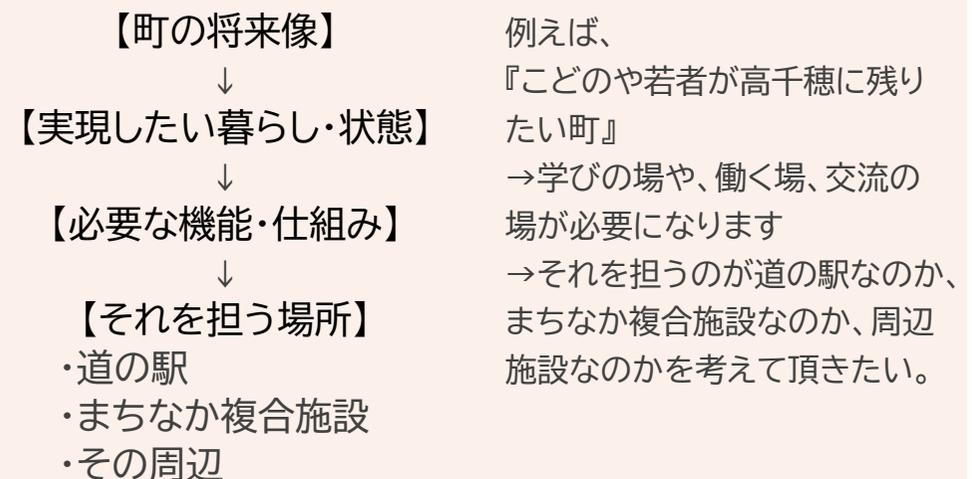
今回考えていただく道の駅やまちなか複合施設は、**建物を建てること自体が目的ではありません。10年後、20年後の高千穂町が“どういう町でありたいか”を実現するための“手段”として整備するものです。**そのため、

- ① 将来どんな町になっていきたいか、どんな町であると良いか
- ② その町を実現するために、どんな機能が必要か
- ③ その機能をどこに配置するのがよいか

という順番で整理する必要があります。

※将来像 → 機能 → 場所で整理することが基本構想で、将来像（コンセプト）が決まらないと、施設規模や機能がぶれます。

② 将来像から機能・周辺施設にどうつながるのか



10年後、20年後の高千穂町は、どんな姿になっていて欲しいですか？

※自由に書いてください

しごと・産業

観光・文化

暮らし・子育て

交流・賑わい

防災・交通

例えば、、、

- 10年後、20年後、自分や子供や孫が高千穂に住み続けたいと思えるために、どんな暮らしが実現してるといいですか？
- ▲10年後、20年後、高千穂が「もっと多くの人に来てもらえる場所」になるには何が必要だと思いますか？
- 10年後、20年後、高千穂が「元気で持続できるまち」、「安心して暮らせるまち」であるためにどんな場所や仕組みがあるとよいですか？

道の駅

「誰のための施設？」（重要）

- 子ども・若者
- 子育て世代
- 高齢者
- 観光客・町外の人
- 町民全体

まちなか施設

「誰のための施設？」（重要）

- 子ども・若者
- 子育て世代
- 高齢者
- 観光客・町外向け
- 町民全体

その未来の高千穂を実現するために道の駅とまちなか複合施設にはどんな機能が必要ですか？
また周辺にはどんな施設が必要ですか？
誰のための施設にしますか？

道の駅周辺

まちなか周辺

サンプルアイデアリスト

※駐車場、トイレは必ず設置するものなのでリストに含めておりません。

このサンプルアイデアがすべてではありません。

道の駅

地元産品、加工品等の直売所
鮮魚・精肉テナント
焼酎販売テナント
飲食テナント、カフェテナント
フードコート
災害時の一時避難スペース
EV充電ステーション
観光案内カウンター
バス・タクシー等の乗り継ぎ拠点
高速バス停留所
高齢者が休める休憩コーナー
授乳室・オストメイト対応設備
観光体験プログラムの受付
イベント(マルシェ等)スペース
特産品加工の実演スペース
研修室
防災倉庫・非常用電源
遊び場(屋内・屋外)
シャワー
贈答・発送カウンター

道の駅周辺

神楽歴史資料館
芝生広場
屋外親子向け遊具
キャンプエリア
車中泊スペース
宿泊施設
フォレストアドベンチャー
イベント・出店スペース
観光案内所
防災公園

まちなか複合施設

図書館
子育て支援センター
屋内遊び場
多目的ホール
こども・高校生の学習スペース
交流スペース
カフェ・コミュニティラウンジ
ワークスペース(Wi-Fi・会議室)
観光案内+歴史展示コーナー
市民活動団体の活動室
観光案内カウンター
バス・タクシー営業所
高速バス停留所
金融機関、商業施設等テナント
高齢者サロン/健康づくりスペース
福祉相談窓口
移住相談/地域情報一元化窓口

まちなか施設周辺

小規模イベント広場
商店街の休憩所
バス・タクシー営業所
高速バス停留所
出店スペース